



CHAPTER 3

レポートのテストとデバッグ

レポートをテストするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** レポートおよびそれに関連した `.properties` ファイルを `/opt/CSCOppm-gw/etc/pollers/user` ディレクトリに保存します。
- ステップ 2** Prime Performance Manager GUI で、`[Reports]` を選択し、`[Reports Status]` タブをクリックします。
- ステップ 3** レポートのリストを下にスクロールして、自分のレポートを探します。
- ステップ 4** 自分のレポートの隣にあるチェックボックスをオンにし、`[Save]` アイコンをクリックします。
これでそのレポートはアクティブになります。
- ステップ 5** レポート ツリーで、自分のレポートをクリックして起動します。
- ステップ 6** エラー メッセージが表示されていないか確認します。
- ステップ 7** Cisco Prime Performance Management レポートの相互起動をセットアップしている場合は、次の手順を実行します。
 - a. Cisco ANA NetworkVision にログインします。
 - b. ネットワーク マップを起動します。
 - c. 相互起動がセットアップされているデバイスまたはネットワークの場所を探します。
 - d. 相互起動ポイントを右クリックします。
 - e. NetworkVision のデバイス ショートカットに `[Performance]` の選択 (`[Performance]` > `[Device Reports]` など) があることを確認します。
 - f. `[Device Reports]` をクリックし、Cisco Prime Performance Manager レポートが起動することを確認します。
 - g. ANA から相互起動するようにセットアップしたレポートが、すべて使用可能で、正しく動作することを確認します。

一般的な問題とエラー メッセージ

ここでは、レポートの実行時に発生する可能性のある一般的な問題のエラー メッセージを示し、それらの問題を解決する方法について説明します。

エラー メッセージを確認するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 ナビゲーション ツリーで、[Administrative] を選択します。
 - ステップ 2 [General] タブをクリックします。
 - ステップ 3 エラー メッセージを確認するには、[General] の見出しの下で、[Error Messages] を選択します。
 - ステップ 4 コンソール ログを確認するには、[System Logs] の下で、[Console Log] を選択します。
-

データベース テーブルの不安定化

自分のレポートによって変更されるテーブルが他のレポートからも使用されている場合、そのデータベースは不安定になる可能性があります。

また、既存のデータベースに対してカラムの追加、カラムの名前変更、カラムの削除といった変更がある場合、テーブルとビューのドロップが必要です。これらのビューのドロップが、ゲートウェイとユニットの両方で完了していることを確認して、不整合の発生を防ぎます。

テーブル ドロップとビュー ドロップの実行方法については、「[テーブルとビューのドロップ](#)」(P.2-19)を参照してください。

不正な MIB 変数

自分のレポートで不正な MIB 変数が使用されると、エラー メッセージが表示されます。

MIB をチェックし、自分のレポート内の XML コードをチェックして、変数が正しく参照されていることを確認します。